

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年5月17日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0890200074		
法人名	社会福祉法人 秀和会		
事業所名	グループホーム さくらんぼ	ユニット名	海の町
所在地	〒316-0002 茨城県日立市桜川町1-1-1		
自己評価作成日	平成24年11月23日	評価結果 市町村受理日	平成25年5月14日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0890200074-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0890200074-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年1月23日	評価確定日	平成25年5月1日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

医療と福祉の複合施設である「ウニクプラザ」の3階フロアにあり、1階はクリニック、2階病棟、4階小規模特養さくら館サテライトがあり連携して入居者の生活を支援しています。  
入居者が居心地のよい生活ができるようにケアに取り組んでいます。  
また、「生活」に彩りを与えるため、食事や買い物に外出するほか、四季折々の行事を計画し入居者に季節感を感じてもらえるようにしています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は日立市の中心部に位置し、国道6号線に面した交通の便が良い場所にあり、同じビル内には特別養護老人ホームや通所リハビリテーション、医療機関が併設されている。  
ビルの中にある事業所だがウッドデッキや中庭が設置されており、居間兼食堂や廊下は広く設計されている。  
医療と福祉が一体となり連携してサービスが提供できる事業所で、管理者や職員は利用者一人ひとりが我が家のように笑顔で寛いで暮らせるよう、コミュニケーションを図りながら支援にあたっている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念～「安心」の提供をめざす～を踏まえ、グループホームでも独自の理念をつくり職員に配布したり、介護職員室に掲示するなどして理念の共有化に取り組んでいる。	「安心」の提供をキーワードとした法人の理念を踏まえながら、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を全職員で作成している。 理念を介護職員室に掲示するとともに、職員は胸章の裏に理念カードを携帯し、常に確認しながら実践に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや敬老会などの催しものに参加することで地域とのつながりを大切にしている。自治会などの活動にも参加していきたい。	利用者は敬老会に参加したり、「よかつぱ祭り」や「大道芸」などの地域の行事に出かけ、地域の人々と交流している。 保育園児が来訪しているほか、歌や踊り、マジックなどのボランティアを受け入れ、利用者が交流できるよう支援している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方々の生活を支援することで積み上げてきた経験を活かし、気軽に相談に乗れる場にするなど地域に貢献できるようにしていきたい。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回、小規模特養と合同での開催を行っている。幅広く意見を聞き、その中で出た提案（ボランティアの活用やアンケート調査実施など）をサービスの向上に向けて実施している。	運営推進会議は家族等や市職員、地域包括支援センター職員、民生委員が参加し、同一法人の地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護事業所と合同で2ヶ月に1回開催している。 会議では事業所の現状や活動報告を行うとともに、幼稚園児や保育園児との交流を報告している。 委員から「家族アンケート」の提案を受けて実施するなど、出た意見等を運営に反映させている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に必ず出席してもらいグループホームの運営状況を伝えている。また、日頃から連絡を密にし相談など行い、特に制度改正時には貴重な意見やアドバイスを頂いている。	市担当者が運営推進会議に出席しているほか、市担当者の来訪時に事業所のケアサービスの取組みについて報告したり意見交換をしている。 管理者や職員は市に出向いて事業所の運営状況を報告したり、相談事のアドバイスを得るなど、連絡を密にして協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が入居者に与える影響などについて研修などを通じて理解している。建物全体として不特定多数の出入りがあり、依然として玄関の施錠に関しては課題となっているが日中は施錠しないなど取り組んでいきたい。	身体拘束排除マニュアルを作成するとともに研修を行っており、職員は身体拘束の内容と弊害について理解している。 胃ろうを造設している利用者が器具を外す行為を防止するため、つなぎ服とミトンを使用しているが、家族等に説明して了解を得たうえで着用するとともに、経過報告を行っている。 前回の外部評価結果で玄関のテンキースイッチにより利用者が自分の意思で外出ができないことへの改善が求められていたが、現在は職員が入浴介助などを行っている特定の時間帯以外は、日中は玄関を施錠しないで支援している。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	一つ一つのケアや言葉かけなど小さな点から虐待に結びつかないように注意している。研修などの機会を通じ虐待防止の徹底に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居されている方に社会福祉協議会の事業を利用している方がいる。訪問支援を通じて理解を深めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書をもとに入居者及び家族に十分理解できるように説明し契約の締結、解約及び改定を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケート調査や意見箱の設置などを通じ、家族の意向調査を行っている。その結果をもとに入居者及び家族本位のケアに取り組んでいる。また、面会時など随時、意見や要望を聴くようにしている。	重要事項説明書に事業所や第三者機関の苦情相談受付窓口を明記し、契約時に説明するとともに、玄関に意見箱を設置している。 職員は家族等の面会時に意見や要望を聴くように努めるとともに、市の介護相談員を受け入れて利用者の意見や要望を汲みあげ、出た意見等を運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員一人ひとりと面談し、意見や提案を聞き、よりよい提案については積極的に取り入れるなど運営に反映させている。	代表者や管理者は毎月開催するユニット会議やリーダーで構成する会議、年1回の職員面談で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。 記録がし易くなるよう書式化をしたり、備品の購入など、職員から出た意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人において就業規則や職員給与規程を整備しているほか定期健康診断の実施など労働環境の充実に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量に応じOJTやOFF-JT等法人内外の研修の受講機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	入居者に対する介護サービスの質の向上を図るため、他施設への訪問研修の実施などの取り組みをしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居した後の本人の望む生活を支援できるように入居前の訪問調査の段階で本人の意向、要望など聴き取り安心できる生活を送れるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前調査の段階で家族へ本人の望む生活の意向を聴き取り入居後の生活支援に活かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の意向や要望を聴き取りその時に必要な他のサービス利用がアドバイスできるように努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分の身の回りのことはもちろん、生活に必要な家事などの共同作業において、本人のできることできないことをアセスメントなどを通じて見極めともに生活する場となるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など随時意向や要望を家族に聴き取り、本人と家族の絆が深まるように支援し、また、家族にも本人の生活を支えてもらう働きかける努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅を見に行く、馴染みの量販店に買い物行く、家族の経営するレストランに外食行ったり、また家族の協力を得て、馴染みの美容室やお墓参りなど今までの生活が途切れないように支援している。	家族等や友人のほか、趣味の仲間が来訪している。 職員は利用者が自宅の様子を見に行ったり、馴染みの衣料品店やレストランへ外食に行けるよう支援している。 家族等の協力を得て馴染みの美容室や墓参りなどに出かけられるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の今まで生活してきた環境を理解し、入居者同士の関わりや支え合える関係ができるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族にもグループホームで生活して頂いた関係性を維持できるように連絡など行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメント時に本人の要望を聴くようにしている。また、日々の関わりの中で本人の発言や表情から意向や望む生活を把握できるよう記録に残すようにしている。	入居時及び6ヶ月毎にアセスメントを行い、利用者の思いや意向を把握しているほか、職員は日々の係わりの中で把握した利用者の思いやつぶやきを「日常管理記録ノート」に記録し、全職員で共有している。 意向の把握が困難な利用者の場合は、行動や表情から真意を汲み取り、利用者本位に過ごせるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中で、本人の今までの暮らしを聴き取ったり、入居時に家族の協力を得て、生活歴や暮らしの情報として把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活の様子を記録に残し把握している。特に日々の生活の中でいつもと違うことに注意し把握するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月ごとのモニタリング、6ヶ月ごとのアセスメントを通じて、現状の把握、本人及び家族の意向の確認を行っている。また、担当者会議を行い、その時々課題やケアの方向性を話し合いプランに活かしている。	介護計画は利用者や家族等の思いや意向を基に担当者会議を行い、その時々課題やケアの方向性を話し合っ作成している。 3ヶ月毎にモニタリングを実施するとともに、6ヶ月毎にアセスメントを実施して介護計画を見直すほか、利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンでの記録システムを導入し、入居者の情報を記録し一元管理し、実践やプラン見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一建屋内にクリニック、病棟、小規模特養がありそれぞれのサービスと連携し事業所の多機能化に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同一法人内の地域包括支援センターに相談やアドバイスを受け安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を聴き必要なかかりつけ医への支援を行っている。1階のクリニックを希望される方が多く必要な支援を行っている。	契約時に利用者や家族等が希望する医療機関の受診が可能なことを説明しているが、利用者全員が同一ビル内にある法人系列の医療機関をかかりつけ医としている。専門科への受診は家族等の付き添いを原則としているが、家族等の都合が悪い場合は職員が同行するとともに、受診結果を家族等に報告しているほか、記録に残して全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の些細な変化でも看護職員に伝え、アドバイスをもらったり、受診へ結びつけている。また、24時間の連絡体制もあり、入居者の生活を支えている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	2階の病棟に入院される方多く、入院時及び退院後の情報交換を適切に行っている。他病院への入院時も同様に行っている。また、退院後の生活のフォローも担当医師の協力があり適切に行われている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を入居中及び入居時にグループホームとしてできることを十分に本人及び家族に説明し看取り介護の同意を得ている。特養の看護師及びかかりつけ医との協力体制を整えている。	「看取りに関する指針」と「看取り介護マニュアル」を作成し、契約時に利用者や家族等に説明するとともに、看取りの段階に入った時点で、医師を交えながら再度事業所の「看取りに関する指針」と「看取り介護マニュアル」を説明して同意を得ている。 同一ビル内にある法人系列の医療機関の医師や看護師と協力体制を構築している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	小規模特養の看護師の協力を得て応急手当の訓練など行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	6ヶ月に一回避難訓練実施している。ウェルニクプラザ全体での訓練となっている。夜間想定訓練など行っていきたい。	同一ビル内にある同一法人の施設と合同で、消防署指導のもと年2回避難訓練を実施しているが、事業所独自の避難訓練や夜間を想定した避難訓練を実施するまでには至っておらず、近隣住民の参加も得られていない。 避難訓練の実施記録はあるが、反省点を記載したり避難訓練で明らかになった課題を話し合うまでには至っていない。 災害に備えて食料や飲料水、備品等を同一ビルの同一法人の施設と合同で備蓄している。	事業所独自の避難訓練や夜間を想定した避難訓練を実施するとともに、避難訓練に近隣住民の参加が得られるよう、運営推進会議で働きかけることを期待する。 避難訓練で明らかになった課題について話し合うとともに、記録に残して次回の訓練に活かすことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを理解しそこから分かったり、見えたりする個人に対して適切な声のかけ方やケアを行っている。	職員はプライバシーの保護について内部研修やミーティングで話し合い、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや支援に努めている。 個人情報に関する書類は事務室の決められた場所に保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	限られた選択肢ではなくその人が望んでいる、考えている事に少しでも近づけるように支援できている。職員だけではなく入居者、家族にも協力を得て思いや希望を確認している。	/		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の気持ちの変化、行動、状況の理解に努めてその人の希望に添った生活が送れるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの生活習慣が続けて行けるように支援している。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや本人の持つ力を活かしながら食事の準備、片づけをできるように支援しているが、できる方になってしまうことが多い面がある。	同一ビル内にある同一法人の施設の厨房で副食を一括して調理しており、主食と味噌汁はユニット毎に作っている。 利用者の嫌いな食べ物には代替食を提供している。 利用者は能力に応じておしぼりを準備したり、味噌汁や副食の盛り付け、配膳、下膳などの役割を担っている。 職員は利用者と同じテーブルで同じ食事を摂り、利用者が会話を楽しみながら食事ができるように支援している。 利用者の誕生日や外出時には外食が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	随時、法人の栄養士と相談しながら一人ひとりに適した食事提供を行っている。また、水分量の確認を行い一日の水分量を確保できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの生活リズムに合わせた中で、口腔ケアを行っている。また、適切な用具を準備し、ケアの仕方も一人ひとりに合った方法で行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンをユニット職員全体で把握し、失敗やおむつ使用回数を減らしていけるように一人ひとりの状態に合わせてながら支援している。	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握するとともに、タイミングを見計らってトイレ誘導し、排泄の自立に向けた支援をしている。 職員はトイレ誘導時には、利用者の羞恥心に配慮した声かけに努めている。 夜間おむつを使用している利用者でも、日中はおむつを使用せず、トイレで排泄ができるように支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	快適な排便が少しでも多くできるように個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	今までの生活習慣の把握に努めて、一日の中での希望する時間に入浴が楽しめるように支援できている。	週3回の入浴を基本とし、利用者の希望する時間に入浴ができるよう支援している。 入浴を拒む利用者には言葉かけを工夫したり、タイミングを見計らって声をかけ、無理強いしないよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の環境を整えたりするなど、一人ひとりの不安をなくしリラックスして休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々の生活の中で何かしらの変化がないか随時気にかけて早期発見、早期対応ができるように努めている。しかし、職員の薬に対する知識が不足している面がある。今後周知徹底できるようにしていきたい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが今まで送ってきた生活、時代背景を知り、また、現在の生活の中から役割や楽しめることを見つけ気分転換できるように支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日にちや曜日の指定はせず、一人ひとりの希望に添った外出を家族の協力も得ながら支援できるように努めている。	事業所に併設しているウッドデッキでの外気浴や、週1回から2回事業所周辺の散歩を支援しているほか、利用者の希望にそって近隣への買い物を支援している。 行事計画を立てて花見やぶどう狩り、梨狩り、紅葉見物などのほか、家族等の協力を得ながら外食に出かけたり、自宅の様子を見に行けるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物、外出先での支払いなど一人ひとりの希望や本人の持つ力に応じてお金の所持から使用できるように目的を理解した上で支援できている。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人ひとりが希望される電話や手紙を使った連絡手段がスムーズにやり取りできるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に生活感や季節感を目で見えてわかるような工夫をしている。共用空間に適度な音・光・広さ・温度の調整を行い居心地のよい空間づくりの工夫をしている。	共用空間は適度な温度や湿度に調整されており、居心地のよい空間となっている。 利用者がいつでもゆったりと休めるよう、食堂兼居間のテレビコーナーや広い廊下の所々にソファを設置している。 食堂兼居間のテーブルや廊下などに季節の花を飾ったり利用者の作品を展示し、季節感を取り入れて居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中にそれぞれの用途に合った場所づくりを行い、独りになったり、大勢で過ごせたりできるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の意向を確認しながら馴染みの物、家具を活かして安心して落ち着ける居室づくりの工夫をしている。	職員は利用者や家族等の意向を確認しながら安心して落ち着ける居室づくりをしており、居室には使い慣れたタンスやテーブル、テレビなど思い思いの物品が持ち込まれているほか、家族や利用者自身の写真、趣味の小物などが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を維持向上、回復できるように建物内部のハードの部分を工夫し安全な生活を送れるようにしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム さくらんぼ

作成日 平成25年5月10日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	事業所独自での避難訓練や地域の方の参加を得ての訓練が実施できていない。	事業独自での避難訓練を実施する	委員会の発足を行い年間スケジュールを立てる。避難訓練実施後、反省を踏まえて次回に活かせるようにしていく。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。